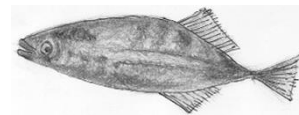


くまがや市民ネット準備会通信



生活クラブ運動の立ち上げ支援を受けています。

2023年7月31日発行 第11号

みどりの食料戦略システムとは??

エコだ有機だSDGsだ、と騒がれている昨今。農林水産省より「みどりの食料戦略システム」が発表され、動画も配信されました。今回、メンバーで視聴したので、そのお話を少しだけ。

気候変動による災害の激甚化、それによる農産物等の品質低下や海魚の漁獲種類の変化、そして深刻な生産者減少、高齢化問題…。

これらを何とかしようとして色々な目標が盛り込まれたのが、この戦略システム。

例えば化学農薬や肥料の低減。原料は輸入に頼っているので、これを機に未利用の資源(堆肥等)に替えて有機にしていきましょう、弱った土壌を元気に戻していきましょう、とか。

例えばCO2ゼロエミッション化。温室効果ガスの削減のために、省エネ設備や農機を使いましょうとか。間伐、再造林でCO2を吸収したり、バイオマス利用したり、とか。

水産面では、海藻類によるブルーカーボンで炭素固定化(貯留)なんてものも発明されているようです。

それに農業の基盤整備。そもそも農地をスマート化(スマホで遠隔操作も?)したりして、節水、節電を実現とか。

これだけ聞くと、すぐにもアレコレできそうな気がしますね。

生活クラブでも、生産者応援だったり、でんきだったり、同じようなことを思ったり実践したり、している部分もあるような…。

でも疑問だって出てきます。

自治体によっては、国によって一律にするのは難しい?

大規模区画化したら、小規模農家はどうなるの?

森林を吸収源にするのはいいけど、効率の良いCO2吸収をしてくれるエリートツリーって?

たくさん植えたら杉の二の舞(花粉症とか)にならない?

いい面も、まだよく分からない面もあるこの戦略は、始まったばかり。

これからもっと話し合い等を重ねて、いいものにしていきたいんだそうです。

家族にとって、地域にとって、地球にとって、優しい食料システムを目指す。

…さて、あなたはこの戦略に何を思いますか?

(奥川亜貴代)

みどりの食料システム戦略 (概要)
 ~食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現~
 Measures for achievement of Decarbonization and Resilience with Innovation (MeaDRI)

令和3年5月 農林水産省

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画

「Farm to Fork戦略」(20.5)
 2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大

「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)
 2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

農林水産業や地域の将来も見据えた持続可能な食料システムの構築が急務

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農業への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量(リスク換算)を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 2030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- 二ホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現

戦略的な取組方向

2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発(技術開発目標)
 2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現(社会実装目標)
 ※政策手法のグリーン化: 2030年までに漁業の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中し、2040年までに技術開発の状況を見据えつつ、補助事業としてカーボンニュートラルに対応することを目指す。
 補助金低減、環境負荷軽減メニューの充実とセットでリスクコンプライアンス要件を充実。
 ※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し、地産地消型エネルギーシステム構築に向けて必要な規制を見直し。

期待される効果

- 経済** 持続的な産業基盤の構築
 - ・輸入から国内生産への転換(肥料・飼料・原料調達)
 - ・国産品の評価向上による輸出拡大
 - ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大
- 社会** 国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大
 - ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
 - ・地域資源を活かした地域経済循環
 - ・多様な人々が共生する地域社会
- 環境** 将来にわたり安心して暮らせる地球環境の継承
 - ・環境と調和した食料・農林水産業
 - ・化石燃料からの切り替えによるカーボンニュートラルへの貢献
 - ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画(国連食料システムサミット(2021年9月)など)



農林水産省
みどりの食料システム戦略

7/2 「希望の給食」 in 妻沼 報告

2月に行って好評だったDVD「希望の給食」を、自校式給食からセンター方式への移行が計画されている妻沼で上映し意見交換しました。「熊谷のこどもと食の未来をつむぐ会」との共催で、参加者は大人32名(内市議4名)、子ども7名と多くの方々に関心を持っていただきました。

(東英明)

(意見交換より)

- ・お米からなら計画的に供給しやすい。
- ・給食センターと自校式の両方を職員として経験した。メリット、デメリットがあるが、自校式の方がよい。
- ・妻沼、大里までセンター方式にする必要はない。
- ・センターでもいいので、安心・安全がほしい。
- ・いすみ市長に声が届いているのがよかった。

(アンケートより)

- ・大変参考になりました。自校方式の優位性をもっと発信してください。
- ・税金の使い道、国の方向性、多様な人の働く場の提供が大事。

・市内の優良メーカーの調味料等々の導入も検討できるとよいと思います。

・自校式給食の広がりはとても大切だと思います。

・農家が減っていく中、こういった食農に触れる情報を知る事は大切。

・自分の住む地域のことを知ることができよかったです。

・有機食材を給食に取り入れることは、すでに実例があり実現可能なものだと分かりました。

・食に関して関心のない保護者、市民が多いと思います。小学校の保護者に、今回のDVDや農薬・添加物についての勉強会を企画するのはどうでしょうか。



新体制のお知らせ

くまがや市民ネットワーク準備会は設立当初から言い出しっぺである東がリーダーを担ってきましたが、今回、世代交代のために準備会の中でも若手の二人が共同代表になりました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。(東英明)

この度、共同代表を務めることになりました深作美幸です。政治や市政には全く興味がなかった私が「政治とくらしは繋がっている」ことに気付き「こどもたちにどんな未来を残したいか、私に何ができるか」を考え始めた時に、市民ネットワーク準備会に出会い仲間入りしました。私にもできることはある！みんなとだからできることはもっとある！ぜひ一緒に楽しく一歩を踏み出していきましょう。よろしくお願ひいたします。(深作美幸)

この度、共同代表の任に就かせていただきました、奥川亜貴代と申します。もともとは、ワーカーズで働いているときに声をかけられ、気軽においで♪と言われて参加したのが始まりです。これまで、日常で思うことはあれど、動き方も分からずただ煩悶と生きてきましたが、仲間たちの熱い想いに触れ、自分にできることは？みんなで何ができるのか？と真剣に考えるようになりました。まだまだ力不足ではありますが、仲間を支えられ、また自分も支えとなり、そして皆さんのお力もお借りしつつ、この社会にできることを模索していけたらと思っています。どうぞよろしくお願ひ致します。ちなみに「この指止まれ☆」は常時受付中！気になる方は是非、お気軽に参加してみませんか♪

(奥川亜貴代)